

7 防災計画

本施設は、「美祢市地域防災計画」に基づき、災害対策本部が置かれる本庁舎と連携する役割に加え、地域住民の一時的な避難場所としての役割を担うことが求められる。そのため、地震や台風、河川の氾濫等の自然災害発生時に、職員や地域住民の安全が確保され、災害対策活動に必要な設備や機能を備えた防災拠点となることを目指す。

（1）災害対策拠点としての機能

災害発生時等の非常時においても必要な業務を継続して行うために策定した、「美祢市業務継続計画」に基づき、災害発生時に迅速に対応できるような災害対策機能を備えた計画とする。具体的には、ライフラインが途絶した場合でも、最低限業務を継続できるように、以下のような建築設備の機能を備えることを検討する。

- ①支所部分において、災害発生後は直ちに災害対策拠点として利用できるように検討する
- ②災害発生時における管内の情報収集、及び、応急対策、関連機関との伝達機能に支障をきたさないように、自家発電設備やバッテリー等の予備電源の整備を図る
- ③保管上重要な書類、サーバーや非常用電源などの災害対策応急活動等に必要な機能を収蔵する場所は、河川氾濫時の想定浸水深よりも高い位置とし、耐火性の高いつくりとする
- ④緊急時、災害時における被災者等への的確な情報提供を行う設備の整備を図る
- ⑤災害時に対応した備蓄倉庫の整備を計画する

（2）避難場所としての機能

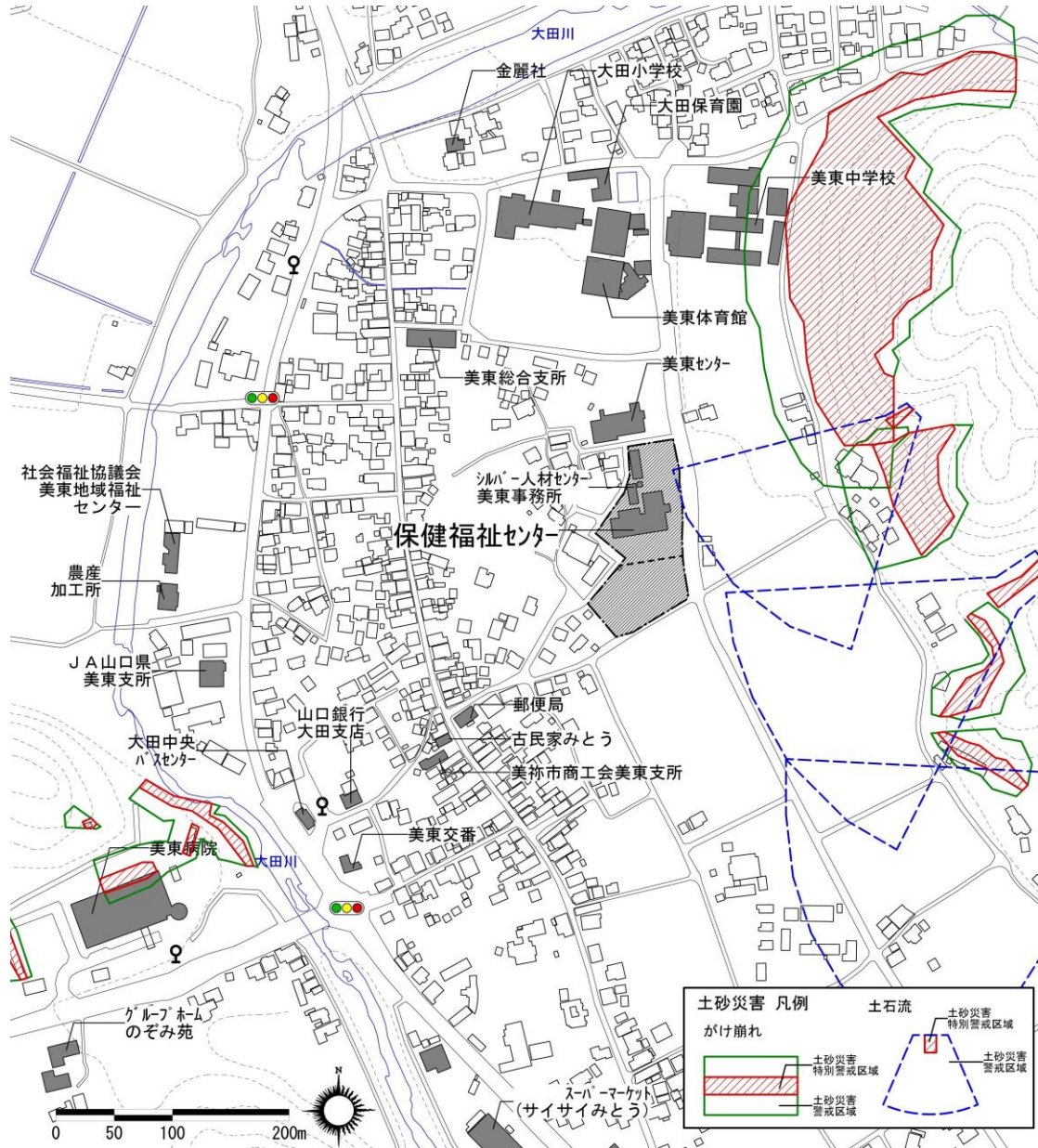
あらかじめ、災害時において避難する被災者数や避難期間、受け入れ態勢などを想定し、安全に一定の生活環境を確保できる計画を検討する。

- ①多目的ホールや会議室、和室を避難所として有効に活用できる構成とする
- ②炊き出しや支援物資集積拠点として活用できる構成とする
- ③断水時にも利用可能なマンホールトイレの設置を検討する
- ④駐車場や広場などを屋外避難場所として活用できる計画とする
- ⑤新型コロナウイルスなどの感染症対策に配慮した避難場所の運営を検討する

(3) 土砂災害対策

複合施設の建設場所の一部は、土砂災害防止法（山口県指定）により、土石流の危険がある地域（土砂災害警戒区域）に指定されている。（図3-8）

複合施設は、大田地区の災害拠点も有していることから、安全性を高める対策を講じるとともに、避難路想定した機能の配置等を検討する。また、ハード面だけでなく、ソフト面での対応を検討する。



※想定浸水深、土砂災害警戒区域について、美祿市土砂災害ハザードマップ（H. 30.3 発行）を参考にプロット
（図3-8）美東地域のハザードマップ

（４）地震災害に対する安全性

美祢市「地震ハザードマップ」では、「菊川断層による地震、どこでも起こりうる直下の地震、近い将来に発生が予測されている東南海・南海地震の3つの地震の予想震度を重ね合わせ、それぞれの地域で最大となる揺れやすさ（震度）」を表示しており、建設候補地は震度6強と想定されている。

地震に対しては、国土交通省が定めた、「官庁施設の総合耐震・耐津波計画基準」に準じて、「大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるもの」として安全性および機能性を確保する。（詳細は第3章5を参照）

（５）洪水浸水に対する安全性

厚東川水系大田川の洪水浸水に対する安全性については、山口県が指定している、大田川洪水浸水想定区域図（平成31年3月公開）によって評価する。（図-資1）（図-資2）（図-資3）

大田川の浸水想定区域図は、「計画規模（厚東川流域の2日の総雨量335mm）」および「想定最大規模（厚東川流域の2日の総雨量518mm）」の2種類がある。

「計画規模」（100年に1度程度）による浸水想定区域図では、建設候補地は浸水想定区域外にある。また、「想定最大規模」（1,000年に1度程度）による浸水想定区域図では、0.5～3.0mの浸水深が想定されている。また、その場合の浸水継続時間は12時間未満であると想定されている。（表3-15）（大田川洪水浸水区域図は資料編参照）

想定最大規模の降雨による洪水が予測される際には、新総合支所は避難場所として適さないため、早期に状況を判断しながら、大田小学校校舎の2階などの避難場所への誘導を行うものとする。また、災害対策拠点機能として重要なサーバー室や備蓄倉庫などは、安全性に配慮して、中2階へ設置することを想定している。

洪水浸水想定区域図の種類	計画規模	想定最大規模
指定の前提となる降雨	厚東川流域の2日の総雨量 335mm	厚東川流域の2日の総雨量 518mm
指定の前提となる降雨による 洪水が発生する頻度の目安	100年に1度程度	1,000年に1度程度
浸水した場合に 想定される水深	浸水想定区域外	0.5m～3.0m 未満
浸水継続時間	—	12時間未満

（表3-15）浸水した場合に想定される水深および浸水継続時間